

CBAP®受験体験記

エディフィストラナーニング株式会社

上村 有子

私は、IIBA の組織の外で人材育成事業の仕事を通して、日本でビジネスアナリシスの価値が高まるよう、その資格が広く認知されるよう日々活動しています。

最近お客様先へ訪問すると、ビジネスアナリシスの話題も頻繁に会話に登場するようになり、確実に認知度が上がっていることを実感しています。また、IIBA 日本支部の主催で 11 月に CCBA™の日本語試験の実施が決まり、勢いが加速していることも喜ばしく思います。日本語試験のこともよく話題になりますが、企業の人材育成担当者は、「受験前の出願が大変難関で、何度も不合格になるのですよね」と、皆、一様に懸念を口にされます。確かに、出願は手間がかかるかもしれませんが、決して難関ではありません。出願についての誤解が受験を躊躇させてしまっているのであれば、それは非常に残念です。誤解を解く一助になればとの思いで、この受験体験記を投稿させて頂くことにしました。

【受験の動機】

昨年、私の勤務先が IIBA の認定教育機関、EEP™ (IIBA Endorsed Education Provider) へ登録申請することになり、申請手続きの担当者として、想定されるお客様のニーズをより深く理解するため、自らビジネスアナリシスを勉強することが必要となりました。

私自身は、普段は人材育成のプランニングや、コンテンツ設計、研修クラスのリファインメントなどを行っていますが、別途、非定期で事業会社の業務部門に常駐しながら業務改革のプロジェクトに参加して、実行支援する機会があります。

初めて BABOK®ガイドに目を通したときは、正直、退屈に感じたのですが、CBAP®の受験を決意した後、心を入れ替えて精読してみたところ、実務に関連の深い記述が随所があり、認識を改めた覚えがあります。私のように、システム構築のバックグラウンドが薄くても、プロジェクトマネジメントを通してお客様の要望に直接接する機会が多い方や、業務改善、改革の支援をされている方であれば、十分に興味をもって学習でき、実務にも活かせる内容なのではないかと思えます。

【出願審査】

出願の手順は、IIBA のサイト、または IIBA 日本支部のサイトのハンドブックその他に記載されている通りです。

IIBA サイトの出願審査のページは、頻繁にアップデートされています。

日本で最初に合格された伊藤様の体験記を拝見すると、業務経験要件の作成が難しいとの記述がありますが、伊藤様の出願当時は、IIBA サイトの記述が淡白で、かなり曖昧な

状況だったのではないかと思います。

今は、IIBA のサイトに、日に日に加筆され、詳細な具体例を伴ったかなり丁寧な注意書きが添えられています。2 人目以降の体験記を拝見すると、皆様ストレートに受理されています。まずは、過去 10 年間の自分の仕事を全て棚卸しして、従事した全時間数を明らかにし、そして、知識エリアへの配分 (%) や、該当のタスクにチェックしてゆく。最初の棚卸し段階では、「7,500 時間」や「該当項目、非該当項目」の別をあまり気にすることなく、とにかく実直に全てを書き出していくことをお勧めします。

私の場合は、自分の仕事の棚卸しは自作のシンプルな Excel シートに展開しました。合計 13,000 時間を超えました。10 年間のうち、直近の数年間、教育関係のプロジェクトが多いので、かなり間引きされることは覚悟の上で、過去の細かいプロジェクトも全て含めました。

もちろん油断は禁物です。そして、手間は確かにかかりますが、しかし、出願審査にパスすることは決して難関ではありません。

【受験申込と受験】

IIBA より申請受理（合格）のメールを受信後、郵便局で郵便為替を発行し、IIBA の本部へ EMS 国際郵便で送付して受験料を支払いました。郵便局の窓口でてきばき対応していただき、特に不安に感じることなく、あっけなく手続きを完了しました。

引き続き送付される受験案内のメールの URL にアクセスして、日本サイトでの受験日時を予約しました。第一希望～第三希望まで入力可能です。数日後、月曜日午後に決定した旨の受験案内のメールが届き、テンプル大学の日本校で受験しました。試験中に何度かハングアップしました。他の方の合格体験記のおかげで、余裕で対処することができましたが、1 回 1 回、画面を切り替えるたびに、ハングアップしないか、ドキドキ、最後まで緊張が途切れることはありませんでした。

【受験の準備】

BABOK[®] ガイドが全てではないけれど、*BABOK*[®] ガイドの内容が試験範囲の大部分を占めるとの理解のもと、とにかく *BABOK*[®] ガイドガイドを熟読することに専念しました。とはいえ、文章を読むのはかなり骨が折れます。過去に、PMP[®] 取得時に使用した問題集にヒントを得て、PDF で入手したテキストから、コピー&ペーストしながら 4 択問題を自作しました。用語の理解と、文章の間違い探しを中心に機械的に作問したのですが、300 問を超える問題集となりました。愚問もあり、自作の問題に失笑しながらも、それを利用して、内容の徹底習得に努めました。

以上が、合格までの道のりです。

最後に、ビジネスアナリシスには、日々の仕事をより良くする、業務改善に向けて役立つトピックや、組織の能力を高めるトピックもたくさん詰まっています。是非、IT 関係の仕事をしている人に限らず、“仕事のすすめ方”に興味のある方は、ビジネスアナリストを目指し、資格試験にもチャレンジされるよう、お勧めしたいと思います。

2011年6月10日作成